



撮影協力/株式会社リサイクルクリーン 新卒入社組のメンバー。若手が職場に新しい“風”を送りこんでいる。

PICK UP ① 人も、会社も、ゴミも「再生」できる
株式会社リサイクルクリーン

PICK UP ② 今、経営に必要なのは「積極的で前向きな守り」
株式会社ベンチャーラボ

INFORMATION E-LINK創刊1周年
定期購読のご案内

不況に
打ち勝つ!

E-LINK

思いと技術を未来へ繋ぐものづくり応援誌 **Vol.8**



(左)ティッシュペーパーにも社名。ブランドイメージ戦略にも力を注ぐ(右下)廃棄物で製造した固形燃料。廃油の再利用にも着手。

かつての3K職場に、若手が集まる理由。

株式会社リサイクルクリーン



●株式会社リサイクルクリーン

事業内容/産業廃棄物・一般廃棄物・資源回収等 従業員数/360名 設立/1987年
所在地/浜松市天竜区二俣町二俣41



(左下)藤城社長と「リサイクルレディーズ」。リサイクルレディーズとは、女性の営業部隊。世の中にはどんなゴミがあり、どのようなニーズがあるのかを実感するために、事務の女性たちも外回りに参加している。(右下)月1回発行する社内報も、社内のメンバーが企画から制作まで自分たちで手掛ける

今では「リサイクル」という言葉で表現される産業廃棄物業界も、かつては「くずや」と揶揄されていた。ゴミに囲まれて屋外で働かなければならない重労働。劣悪な環境の3K職場に自ら希望して入社してくれる者は、ほとんどいなかった。

こうした環境を「できることから変えていく」ことで、若手が集まる成長企業へと変貌させたのが、リサイクルクリーンの代表取締役である藤城太郎さん(43)だ。

二代目である藤城さんが入社したのは16年前。当時、現場では、多くの人がヘルメットをかぶらず、くわえタバコで仕事をしていた。藤城さんは、くわえタバコを止めること、ちゃんとヘルメットをかぶって仕事すること、そんな当たり前のことを納得させることから、コツコツと始めていった。

8年前には、大きな決断をした。新工場の建設だ。

「くずや」から脱却するには、ゴミを集めて処理をするのではなく、産廃を集めて物を作り出す“生産工場”にならなければと思っていました。そうすれば、きっと社会にも認知されるはずだ、と。

2億円を投資した新工場は、屋内で仕事ができるよう体育館のような外観にした。風雨にさらされることなく、これなら社員が気持ちよく働ける。さらに、その工場では収集した廃棄物から『固形燃料』などを製造できるよう設備を整えた。なぜ、自分たちはゴミを集めるのか。そのゴミがどう生まれ変わり、社会や生活の役に立っているのか。その流れを働きながら実感できる新工場。従業員の働く意識が少しずつ変わっていった。

当時は新工場も含めて3拠点だった工場が、現在は9拠点に拡大。約50名の従業員数は360名以上となり、大卒の新入社員も入社してくるようになった。働く環境が改善されてきたといっても、まだまだキツイ職場には違いない。それでも、若手が集まってくる理由。「ぼくたちがゴミを生まれ変わらせる」。今、ここで働くすべての人が、自分の会社、自分の仕事に誇りを持っている。

企業と企業の特性を結びつけ、新しいビジネスを生み出していく。ベンチャーラボでは、これまでも数々の企業マッチングを実現させてきた。その中核となり活動しているのが、浜松支社長の中村穰治さん(写真左)と宮武哲さん(写真右)だ。経済不況の真っ直中にある今、中小企業の苦労を肌で実感している二人は、この時代を乗り切るためのアドバイスをこう語る。

「今は守りの時期かもしれませんが、ただ守っているだけではダメです。この期間が会社の贅肉を落とす時

期であり、次へジャンプするための方向性を見直す時期であるということに自覚して、“前向きで積極的な守り”をしてほしいと思います」(宮武)

「経営者は、どんな時も“今日、明日、あさって”の視点を持ち、経営資源をどう配置していくのかを考えていかなければなりません。今はどうしても『今日のことで精一杯』になりがちですが、世の中が大きく変化しようとしている中、未来の事業や市場がどう変化していくかを、じっくり冷静に見つめていくことが大切です。好奇心と関心、ありがたい姿の実現と強烈

な使命感、専門技術力。この3つがこれからの時代に生き残れる企業の付加価値を生む源だと思います」(中村)

社会が停滞している時期だからこそ、1歩先へと踏み出す勇気を。先んじて踏み出す勇気が、時代の変わり目に大きく飛躍するチャンスとなる。今日を必死に乗り切りながらも、明日、あさってへ目を向けることも忘れない。ベンチャーラボでも「今からこういう種を蒔いて育てていきたい」という経営者の思いを、全力で支援していきたいと話す。

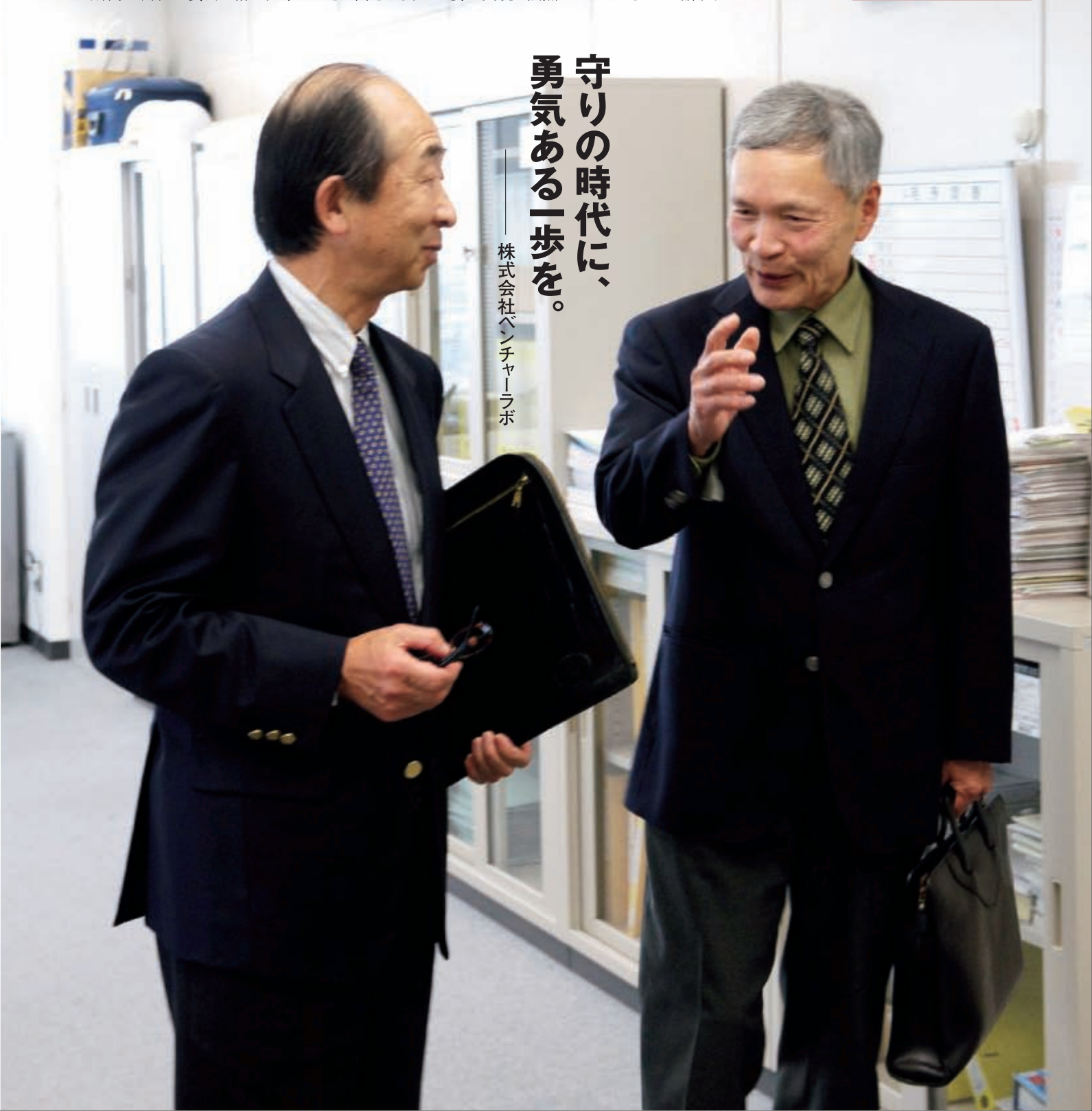
●株式会社ベンチャーラボ
事業内容/企業力格付評価、知的財産活動支援(企業マッチング)など 従業員数/3名(浜松支社)
創業/1999年 所在地/浜松市中区東伊場2-7-1 浜松商工会議所会館8階(浜松支社)

E-LINK onlineもチェック!

より具体的なアドバイスを掲載しています。ぜひご覧ください。

守りの時代に、 勇気ある一歩を。

株式会社ベンチャーラボ





創刊から1年が過ぎました。 多大なご支援に感謝します。

ものづくり応援誌「E-LINK（イーリンク）」は、おかげさまで創刊1周年を迎えることができました。これもひとえに日頃からお支援助けくださった皆様のおかげです。

「不況に打ち勝つ」。日本のものづくりは、これまでもオイルショックやバブル崩壊などの経済不況を糧にして、新たな技術や方向性を生み出し続けてきました。先行き不透明な経済不況の中、それを乗り越えるための未来の技術や斬新な経営が、きっとまた育まれてくるはずです。E-LINKは、これからもその姿を追い続けていきます。

【創刊1年「活動と誌面への反響」に関するご報告】

●2008年12月現在 配布先企業数7500社を突破しました。

事務局では「E-LINK」を知っていただくための広報活動を地道に続けています。静岡県浜松市～愛知県豊橋市エリアに拠点を構える企業・学校・各地域の商工会議所等を訪ねて活動主旨の説明を行った結果、購読企業は7500社を突破いたしました。

●誌面に寄せられた反響、取材先からの声をいくつかご紹介いたします。

- ・安易に知名度や規模で選ぶ学生が多い中、ぜひ記事を学生に読ませて、企業選びの参考にさせたい（高校の就職支援担当教諭）
- ・学生に「中小企業でも自分に合った環境がある」と具体的にイメージしてもらえと思った（高校の就職支援担当教諭）
- ・社内広報誌を定期的に発刊しているが、社員の興味を引く誌面にならないのが現状。社内活性化を図るためにも「E-LINK」の誌面づくりを参考にしたい（企業広報室）
- ・WEB連載「20代の肖像」を読んで、あまり話す機会のない若手がどのような思いで働いているのかを知った。驚きそして考えさせられた（60代・経営者）
- ・両親や親戚に配りたい。取り組んでいる仕事を伝えたいから（20代・取材対象者）
- ・求人の際、入社希望者に配りたい。会社の特徴を的確に表現してくれた（取材対象企業・人事）
- ・取材と原稿の視点が独特で興味深い。写真のクオリティも高い（大手新聞社・記者）

定期購読のご希望はこちらまで。

E-LINKでは、定期購読をご希望される方を随時募集しています。下記ホームページアドレスから、お気軽にお申込みください。
※無料で配布させていただいています。
※配布数などのご相談にも応じます。
※不明点は何なりとお問い合わせください。

E-LINKのWeb版「E-LINK online」でもさまざまな情報を発信しています。本誌とあわせてご覧ください。

【ものづくり企業・新世代の経営戦略】「3K職場を改革。若手が働きがいを持てる会社に」 株式会社リサイクルクリーン 藤城太郎さん
 【表紙インタビュー・20代の肖像】「その廃棄物は、俺たちが生まれ変わらせる」 株式会社リサイクルクリーン 佐々木和宗さん 萩尾典之さん
 【ものづくりの先達からの伝言】「この不況を乗り越えるために、今、やるべきこと」 株式会社ベンチャーラボ

●定期購読のお申込みのほか、最新記事やE-LINKのバックナンバーなどの情報がご覧になれます。<http://www.k-ktec.co.jp/elink/>
 発行/ケーテック株式会社 所在地/〒431-0451静岡県湖西市白須賀3985-2716 連絡先/電話:053-577-2002(代) E-mail:elink@k-ktec.co.jp
 発行日/隔月1日発行(次号は5月1日予定です)